

便所は法事・江津市跡市町

令和3年5月4日掲載予定

収録・解説・酒井

董美たよ

イラスト・福本 隆男



語り手 開頭得雄さん(明治26年生まれ)
収録・昭和46年8月11日

あらすじ

昔、村のある家の娘さんがお嫁に行くことに決まりました。そしてその支度がたいへんで、かぶ籠甲の櫛、笄、カナコ簪、頭にかぶる帽子、針箱、鏡台、タンス、長持ち、両かけなどをそろえて、やっと準備はできました。そうなの、行く日が決まりました。娘さんがお父さんに聞きました。

「祝言の晩のお座敷で小便がしたくなったら、どう言ったら席を立てばよいでしょうか。」
父親もちよつと返事に困りました。それで、
「そんなことは川本の光永寺さんがよく知っておられるから、明日聞いてやる」と言いました。

翌日、父親が二里ばかりの道を歩いて光永寺へ着くと、ちょうど院主さんは庫裡の入口でワラジをはきかけておられました。
「娘が嫁に行きますが、祝言の席で小便がしたくなったら、どう言えはよいでしょう

か。教えてください」と聞きました。急いでいた院主さんは、
「何を言いなさるか。わしやこれから法事に行くのだ」と言うとお父さんはそれが答えかと思ひ、喜んで
「お出かけのところをありがとう。ございませう」と礼を言つて帰り、娘に、
「やつぱり行つてよかつた。小便に行くときはこれから法事に行きます」と言つて立つのだと教えました。
祝言の晩が来ました。型どおりに次から次へとお膳が運ばれ、そのうちに娘は小便がしたくなりました。「ちよつと法事に行つてきます」と襦を開けて出るとそこに糶があり、娘は「糶櫃だなあ」と思ひました。
さらにまた次の戸を開けて出ました。そこにはゴボウ畑があります。そこで娘さんは長い間溜めておいた小便をしておりました。
ところが、ちよつどそのとき、夜明けになり、隣の婆さんが雨戸を開けておりました。そして何やら自分の家のゴボウ畑に黒いものがおります。

「おい、人のゴボウ畑で何するんだ」と大きな声で怒りましたら、
「わしは今、法事をしておりますが」と娘さんが答えます。
「人のゴボウ畑で法事をするとは、いけんじやないか」と婆さんが怒りました。
それ以来「人のゴボウ畑で法事をする」とみんなが言うようになりました。

解説

この話は「人のゴボウ畑で法事をする」という諺を説明した由来譚となっている。この諺の意味は「他人の力やものを利用して自分の仕事をする」とを指す。同じ意味を表す別な諺としては「人の糶で相撲を取る」というのがある。

それはともかく、諺の起源をこのような笑い話として説いた古人に、わたしは大らかなユーモアの精神を覚えるが、いかがなものであろうか。

(元島根大学法文学部教授)

